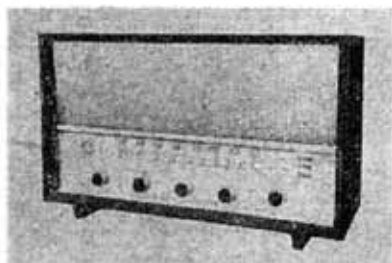


新製品紹介

ラジオ

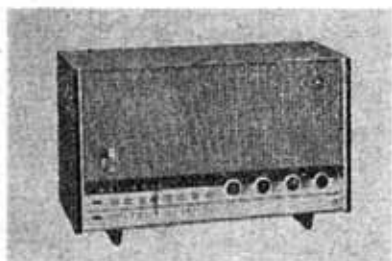
日立のラジオ

S-569 型は Hi-Fi 2 バンド・スーパーで、2 ウェイ・スピーカ・システムを採用している。規格はつぎの通り。受信周波数帯：BC 535~1605 kc SW 3.8~12Mc スピーカ：低音用 8" 低音用 2.5" パーマネント・ダイナミック アンテナ：フェライトおよびキャパシティブ・アンテナ内蔵 寸法：605×330×230mm 価格 18,300円



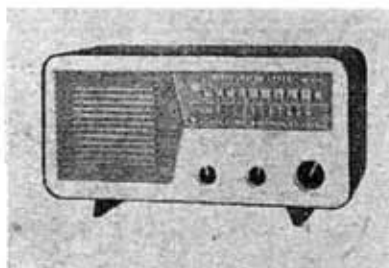
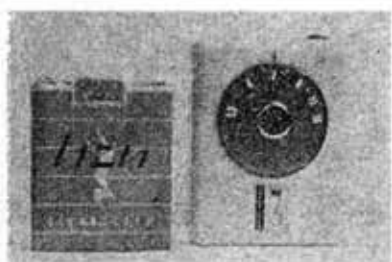
ナショナルのラジオ

EA-700 は 7" のウーフルと 5" のトゥイーターを持った Hi-Fi 2 バンド・オールウェーブで、リモート・アジャスタもついている。規格はつぎの通り。受信周波数：BC 535~1605 kc SW 3.7~12Mc 出力：無重 2W 大きさ：530×334×218mm 価格 16,500円



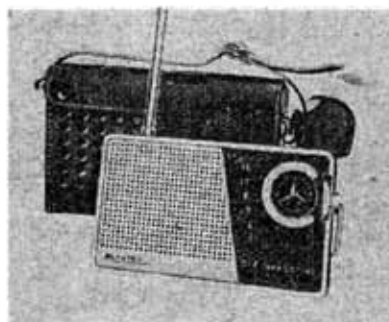
ユニオンの TR ラジオ

TR-3 は TR 3 石スーパーで、主な規格はつぎの通り。トランジスタ：2S12, 2S13, 2S14 グルマニウム：1N60A または SP-46 電池：BL-006 P イヤホン：ユニオン R-101 外径寸法：90×79×25mm 価格 5,850円 (横浜市鶴見区下末吉町915 大成無線)



タイヘイのキャビ・キット

6R-25B は規格標準型 2 バンド 5 球マジックつきスーパーで、大きさは 455×234×182mm なおキャビネットは、ハード・ボードを最新技術で曲げて、加工を施したもので、プラスチックと木材の双方の特長をあわせてもち、音響的にも機械的にもすぐれた利点を持っている。価格 円 (東京都千代田区神田和泉町1の5 三葉会館内)



クラウンの TR ラジオ

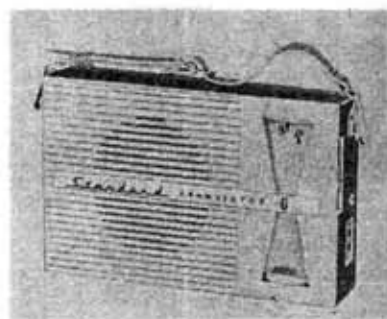
TR-76 は 6 石トランジスタ・スーパーで、規格はつぎの通り。出力：10% 重で 60mW 電源：9V BL-M05 スピーカ：クラウン P-20 2.5" ダイナミック 大きさ：140×82×49mm 7 腔ロッド・アンテナ使用可能 価格 11,700円



ナショナルの再生装置

写真はナショナルから発表された、5 球パーソナル・ラジオ EX-485 と、

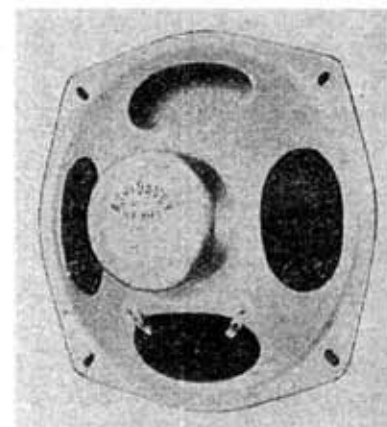
4 スピード・ブレイブ EL-861 を組合せて、小型電着としたものである。EX 485 は 5 球トランスレス。ブレイブの規格はつぎの通り。モーター：リムドライブ式 4 スピード・フォノ・モーター 絶縁抵抗：50MΩ 以上 ターンテーブル：6" ゴムカバーつき ビックアップ：クリスタル PU 出力：SP 1.2V 以上、LP 0.4V 以上 針圧：8g 大きさ：300×115×235mm 価格はそれぞれ 6,500円、5,300円



スタンダードの TR ラジオ

SR-F32 は 6 石トランジスタ・スーパーで、規格はつぎの通り。アンテナ：4×20×120mm フェリスティック・アンテナ 無重出力：100mW スピーカ：3.5" パーマネント・ダイナミック イヤホン：スタンダード MD-216 外部スピーカ端子：6~10Ω 電源：6V UM-2 4個 大きさ：45×115×200mm 価格 12,800円 (東京都渋谷区南山町53 (46) 5126)

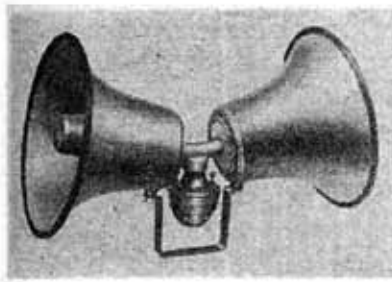
スピーカ



アシダ音響のスピーカ

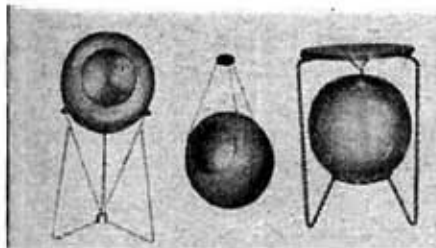
6P-HF1 は 6.5" Hi-Fi スピーカで、MR コーンを採用により、従来の 6.5" スピーカの 2/3~1/2 の質量ですむ。規格はつぎの通り。再生周波数帯域：30~15000%±5dB fo：50~70% VC インピーダンス：4Ω 磁束密度：7530 ガウス 取付け寸法：158mm

スッパ開口口径：135mm 重量：
40.75kg (東京都品川区東大崎3の206)



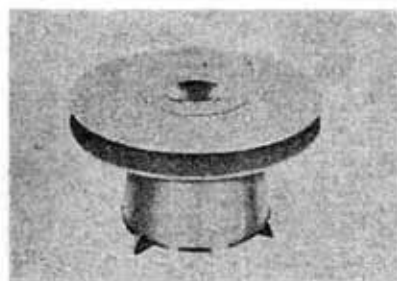
ハイベックスのスピーカ

WH-10 は両面レフレックス・ホーンで、単1ユニットで両面に使用できるのが特長。口径12" 全長22" 重量1.8kg 価格 5,600円 (大阪市東区平野町4の40ハイベックス音響K.K.)



パイオニアの球型スピーカ・システム

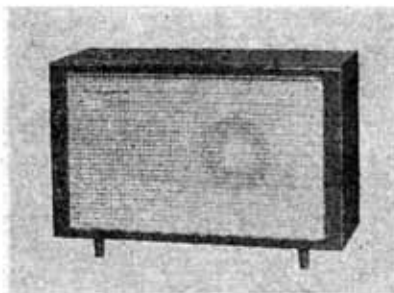
CS-01A, CS-01B, CS-01W は、ともに 6.5" メカニカル・2ウエイ・スピーカを装着した球型スピーカ・システムで、CS-01A は据置用のスタンド型、CS-01B は天井釣下型、CS-01W はテーブル型無指向性システムである。CS-01A, CS-01B の規格はつぎの通り。使用スピーカ：PIM-6 VC インピーダンス：16Ω 再生周波数帯域：80~16000% 最大許容入力：3W 球外径：400mm 内部容量：31000cm³ 価格はそれぞれ 12,000, 11,500, 14,300円



パイオニアのスピーカ

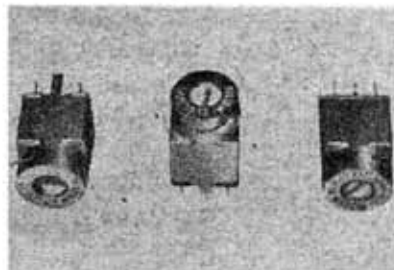
PT-01 は無指向性スピーカで、規格はつぎの通り。ボイス・コイル：16Ω±10% カットオフ周波数：1500% 再生周波数帯域：1700~16000% 最大許容入力：20W 出力音圧レベル：105 dB/W クロスオーバー周波数：オー

バ 2800% 外径寸法：156mm 全高寸法：7.65mm 価格 7,200円



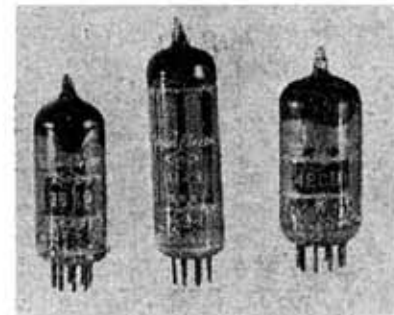
ナショナルのスピーカ・システム

SPS 62 はラワン合板を使った密閉型キャビネットに、6.5" DU ソニック・スピーカ 6P-W1 をつけたもので、80~16000% を歪みなく能率よく再生する。価格 7,500円



ミツミの TR 用 IFT

写真はミツミから発表されたトランジスタ用 IFT の S 型で、外型寸法は角の部分 10×10mm、丸の部分は直径10mm、高さは 15mm。インピーダンスは、トランジスタの出力インピーダンスによって、高位、中位、低位があるから、いかなるトランジスタにも適合する。



NEC の真空管 3 種

写真は NEC から発表された真空管3種で、左から 3BZ6, 19A3, 4BC8。3BZ6 は、TV のチューナおよび中間周波用のバリミュー管で、バイアスの浅い範囲では 6CB6 とほとんど同一

の特性を有し、リモート・カットオフにして、入力の大いときに混変調を生じないようにしてある。TV の IF 段で AGC をかけて使用するのに最適。19A3 は傍熱型整流管で、RF 増幅つき、またはマジック・アイつきトランジスタ・ラジオに好適。ヒータは 19V 150mA。4BC8 は 3BZ6 と同じくチューナ、中間周波増幅用のバリミュー管で、入力小さい範囲での AGC 特性は 6BQ7-A とほとんど同じ。かつリモート・カットオフ。



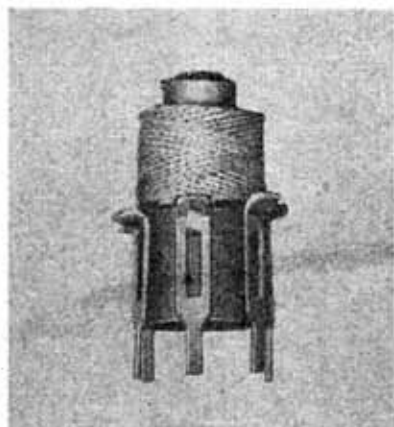
レックスのアウト・ブット

RO 225 の特徴はつぎの通り。1) プラスチック型ケースに入っているのので、内部コアの振動がなく、取付けが完全。2) 巻線は平衡分巻きになっており、巻線は特殊皮膜の銅線が使用されているので、レヤショート心配がない。3) 2次インピーダンスはシリーズ・タップ式。4) 1次、2次インピーダンスはユニバーサル式にタップが出ており、規格はつぎの通り。出力：50%で13W 周波数レスポンス：15~70000%±1dB 1次インピーダンス：5, 8, 10kΩ 2次インピーダンス：4, 8, 16Ω 2A3, 6AR5, 6V6, 6AQ5, 42, 6BQ5 用



ミヤマ電器のスナップ・スイッチ
写真はミヤマ電器から発表された、

超小型スナップ・スイッチ 267 で、小型化するために、接点、材料を吟味し、耐久力を高め、接触抵抗の減退をはかっている。容量は 6A, 125V。大きさ 12×30×14mm。価格 55円〔東京都大田区上池上町56 ミヤマ電器株式会社〕



ミツミの TR 用発振コイル

OL-261 はポリバリコンのトランス用 PVC-12BT 型に合せて設計されたもので、インダクタンスは 261 μ H。特にプリント配線に適している。〔東京都品川区大崎本町2の446 三美電機株式会社〕



スター無線の新製品 2 種

S-150 はテレビ受像機の修理、調整、出張サービス用の超小型器で、携帯用ショールダ・バッグに入っている。水平垂直10%~350kc -3dB。使用真空管は、6CB6×2, 12AU7, 5MK9, 6X4。大きさは24×160×150mm。

S-160 は S-150 と同様テレビの出張修理を目的としたサービス用チェッカーで、600% 低周波発振器、および 4~5Mc のスイープ発振器をそなえている。またヘテロダイン電波計ともなり、附属アダプタにより、メガーにも

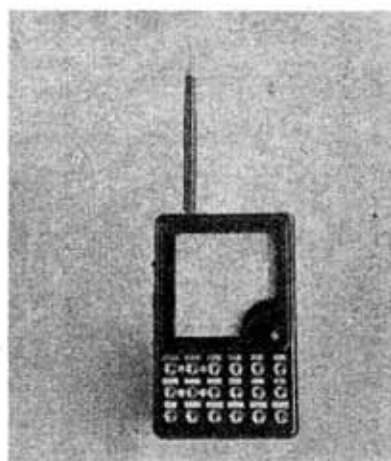
なる万能型チェッカーである。大きさは 240×160×130mm 同じくショールダ・バッグつき。



東京録音工業のテレコ

SM-100 はスプリング・モーター式のミニコーダー・メカニズム・キットで、つぎの特長、性能を持っている。

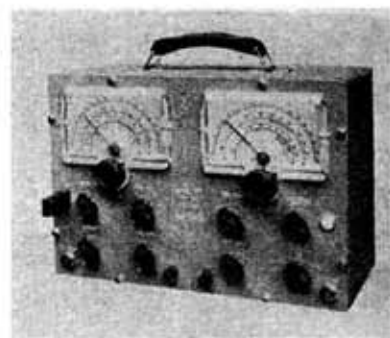
- 1) 歩行中、移動中에서도録音可能。
 - 2) 大きさは、185×110×235mm, 1.7kg。
 - 3) テープ・リール：3" テープ
 - 4) テープ速度：3.75"/秒
 - 5) 録音再生周波数範囲：200~5000%
 - 6) ワウフラッタ：±0.9%以内
 - 7) 巻もどし：手控ハンドルによる
- 価格 7,400円〔東京都世田谷区代田2の849 東京録音工業株式会社 (32) 5408〕



ハンセンのテスター

HB 型は、テスト棒 2 本で測る普通のテスター用法のほか、付属のトップリード・クリップ・コードの使用により、テスター本体を測定しようとする場所に近づけて測定することができる。ゼロオーム・アジャスタなど、すべて左手で持ったまま操作できるので、不安定な場所で使うのに便利。なおテスター頭部にパイロット・ランプ

が点灯して、測定個所とスケールを照らすようになっている。内部抵抗計は 5k Ω /VDC 2.5k Ω /V AC, Ω , mA 計のほか、L, C 計、メガー、Sメータとしても使用できる。



大松電気の TV-FM スイプマ・ジェネレータ

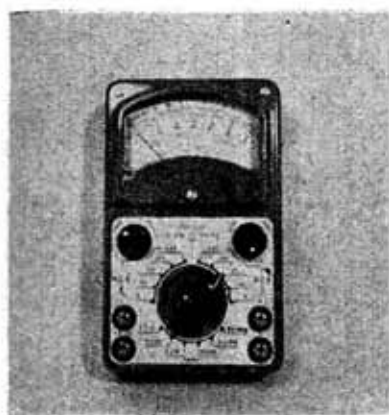
LSG-531 型はスイープ・ジェネレータと、マーカ・ジェネレータを総合的に組合せたもので、規格はつぎの通り。スイープ発振周波数範囲：3~260 Mc 2 バンド マーカ発振周波数範囲：3~225Mc 2 バンド マーカ周波数誤差：±1%以内 スイープ掃引帯幅：0~12Mc 以上 出力インピーダンス：75 Ω 不平衡 水晶発振器：4.5Mc ±0.002% 使用真空管：6J6, 12BH7×2, 6AV6, 6X4 出力電圧：100,000 μ V 以上 寸法：340×230×150mm 価格 円〔東京都目黒区上目黒5の2596〕



ヤマハの再生装置

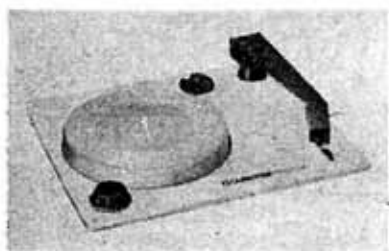
H-1 型は、アンプ、プレーア・ケース、2ウエイ・スピーカ・システムをひとまとめにしたものである。モーターは高級 4 極モーターを使用した 4 スピード。ピックアップはオイル・ダンブ・アームを採用し、トーン・アートのレベル切替装置がついているから、リスニング・ルームにマッチした音質で Hi-Fi をたのしむことができる。またテ

プ・レコーダ、FMチューナの接続も可能。〔東京都中央区銀座7 日本楽器製造株式会社〕



ハンセンのポケット型バルボ

写真は外部電源のいらないPV型ポケット・バルボで、内部抵抗測定範囲など、大型のVTVMと同様に使用できる。測定範囲は、DC 0~600V (5レンジ) AC (RMS) 0~600V (5レンジ) AC (P-P) 0~1800V (5レンジ) 抵抗0~200MΩ (6レンジ) 高電圧のプロープにより 0~12000V まで、入力抵抗 80MΩ としても用いられる。価格 4,980円 (東京都千代田区神田神保町3の3 ハンセン電機工業 K.K.)



ニートのプレーア・ユニット

TP-77W は先に発表した TP-77 型0改良型で、マグネチック速度調整とアーム・スイッチがもうけてある。ピックアップはロネット・タイプ・クリスタル・ターンオーバー型。アーム・スイッチ、ボリューム・コントロールは配線済み。フォノ・モーター、2極インダクション 消費電力: 8.5W 出力LP 0.7V, SP 1.0V (1000% 1MΩ) レスポンス: 40~13000% 針圧: 8g 価格 4,550円

このページは国内メーカーの新製品速報欄です。掲載は原稿先着順、取扱は編集部に一任されています。

今月の注目新製品

スタックスのカートリッジ CP-15-V

針先がへれば高音が出にくくなって音が不明瞭になり、音の歪が増加する。このことはいままでレコード再生の宿命とのみ考えて、針先が減ったら新しいのと取換えるよりほかなし、ということになっていた。

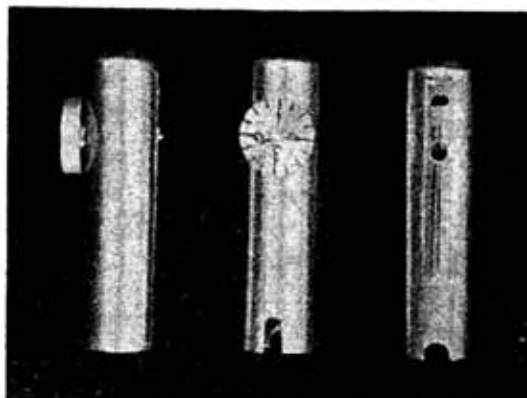
また減った針でレコードをかければ、大切な音溝も同時に傷むので、これは二重に損失を大きくしていることになる。

この宿命の欠陥をもの見事に解決して、いままでのPUの針先の問題になやまされることなく、しかも音質の変化にもっとも忠実にしたかのように考えられたPUが、CP-15-Vである。

針先の曲率半径1ミルが、LP一面ごとに500メートルもの長い道中を毎秒16インチくらいのスピードで走っているわけで、この間休みなく針先の両側がこすられてゆく。

このように一面ごとに長い距離をすべりながら旅行してゆくの、さすがの固い宝石針も少しづつ減って、何面も繰返してゆくと、球面と溝の壁とが触れあうところが、次第に平に減ってゆき、ほぼ平な円形の面になる。こうなると、音の入った溝は曲りくわっているから、その曲り通りには針先がついてゆけなくなる。

このことは、サファイヤもダイヤモンドも



少し廻らすという具合にすれば、連続したごくわずかな減りが、第1図(ハ)のように、一廻わり輪の形に細くきれいに仕上げたような部分ができる。

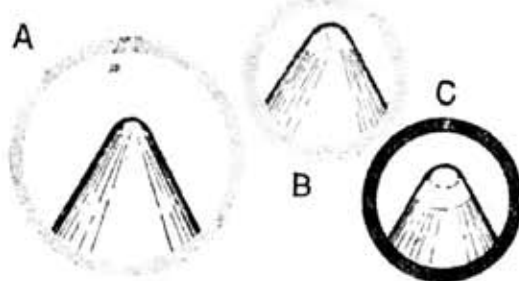
従来の減り方では、前述のようにだいたい平坦な磨耗面ができるため、音溝の曲面をブリッジして歪みの大きな原因となるが、新方式では、減る面が曲面を形造るので、その歪がほとんど問題にならない。

もう一つの新方式の特長は、録音されたダイナミック・レンジの広さをあますところなく再生できることである。これは普通針先が音溝を通過するとき、音の大きいところほど針先と溝の間の抵抗が増加して、針先がレコード廻転方向に引張られる力が増す。

このため、普通のカンチレバー式のPUでは、振幅の増加とともにかえって左右に動きにくくなるような力が生じてくる。そのために溝の壁をたわめることになり、ダイナミック・レンジは充分に再生できにくい結果を招く。ところが新方式の場合は、この原因になる力を逆用して針先の弾性に打勝って、音溝の変化に追従する力に変換するために、大振幅でも楽に針先が振動する。

以上述べたように、Hi-Fi再生にきわめて有効な改良がおこなわれると同時に、針先の交換も一層簡便になって経済的である。

それは、直径0.4mm、長さ5mmくらいのパイプ状振動子を抜き差しすることによって、簡単に針交換ができるからである。さらにこのパイプの反対側に別の針を植え込んでおけば、一層経済的なことになる。(林 尚武)



ソンドも、時間の差こそあれ、同じ運命をたどるのである。このように減った針先を拡大してみると、第1図の(ロ)のように、まだ減らない部分が残っているのに気がつく。

そこでこの新型PUでは、最初的一面だけかけて、まったく新しい針先のない音のするうちに、少し針先を廻らすようにできている。また一面かけた